

大好きなコンタクトレンズ

関柴小六年

わたしは多くの小学生に、コンタクトレンズを使っても  
らいたいと思います。

わたしは、五年生までめがねをかけていました。かけ始めたのは五歳ぐらいからで、母の話によると、視力が低下しないためだとのことでした。今は、かけ始めのことはよく覚えていません。しかし、小学校に入ってから「めがねをかけなくても見えるのに。」

「どうしてめがねをかけないといけないんだろう。」

といつも思っていたことは、しっかりと覚えています。

わたしが小学校に入学したころは、ちょうど新型コロナ感染症がピークのころで、マスクが欠かせない時でした。めがねをかけていると、どうしてもレンズがくもって、見えなくなることが多かったと記憶しています。そのたびにふいていたので、大変でした。さらに、他にはだれもめがねをかけていなかったので、めずらしく見られていたように思います。さらに、夏には日焼けのあとがつくので、外

した時には、とてもはずかしい感じがしました。姉はすでにコンタクトをしていたので、六年生になるのをきっかけに、母に思い切って話してみました。母は、「ちゃんとできるか。」心配していましたが、コンタクトにすることに挑戦しました。姉にも話を聞いて、がんばろうと思いました。

始めはやっぱり、眼を触るような感覚になれなくて、こわくて何回も失敗しました。それでも、コンタクトレンズの良さを味わいたくてがんばりました。慣れてくると本当に便利で、思った通りでした。

「運動する時にずれない」

「マスクをしていてもくもらない」

「日焼けしてもあとが残らない」

「縁がないので、視界がすっきり」

めがねの時に比べると、世界が変わったようでした。

そんな便利なコンタクトレンズですが、目が、かわくと視界が悪くなるので、目薬が欠かせません。正しく使わないといと目の病気になったりします。そんな中、ずっと嫌いだ

っためがねの良さを感じことがあります。

「取り外しが簡単」

「目が病気になることが少ない」

「長く使える」

でも、めがねにもどる気はありません。五年生までの不便さやいやな気持ちは味わいたくありません。また、コンタクトレンズにするかどうか迷っている小学生に言いたいです。きっと目に負担がかかるからと、コンタクトレンズにしないで、めがねにしている人がいると思います。でも心配はいりません。眼科の先生は優しく使い方を教えてくれるし、ちゃんと使えば安全は保証されています。

わたしは、コンタクトレンズに変えてから、友だちに  
「こっちのほうがいいよ」

「かわいいね」

と言われました。表情も明るくなったのが自分でも分かるし、服を選ぶのも楽しくなりました。きっと世界が変わりますよ。